

平成26年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	地域づくりを牽引する技術者育成教育 ー技術者の複眼的感性涵養のための「まち」なかキャンパスー	
実施組織 (または対象のカリキュラム)	工学部	
※連携する他学部・機関がある場合は記入	須坂市	
実施責任者(所属)	土本俊和 (工学部)	
取組の目標	文化資源が豊富な須坂市を現場として、地域の文化に関する造詣と地域のニーズをふまえて新たな知を創造することができる、地域づくりを牽引する技術者を育成する教育プログラムを構築する。	
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	①講義 ・建築設計製図Ⅳ【3年次生対象・後期開講必修科目】 須坂市(旧上高井郡役所)にて計10回の講義を行い、須坂市の歴史的市街区と歴史的建造物の再生案を提案した(「街区の再生」・「民家の再生」)。2月7日には市民公開講評会(須坂市シルキーホール)を開催し、優秀作の発表を行った。 ・認知環境システム学演習【大学院演習・通年】 須坂の歴史的市街区の公共性について調査し、休息を前提とする空間を提案し、ベンチを実際に制作した。2月7日には市民公開講評会(須坂市シルキーホール)を開催し、作品の発表を行った。 ②調査研究 ・旧小田切家住宅の保存・活用にむけた調査研究【期間：通年】 旧小田切家住宅(須坂市指定有形文化財)の建物について、保存・活用にむけた調査研究を実施した。	
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望 (達成の度合いを選び、そう評価する理由と今後の展望を記述)	a. 達成できた O b. おおよそ達成できた c. 半ば達成できた d. おおよそ達成できなかった e. 達成できなかった	(そう評価する理由) 大学、地元企業、行政および民間団体による点検評価(蔵の町並みキャンパス推進協議会)において、本教育プログラムの完成度について高い評価をうけたものの、地域のニーズをくみとる仕組みが十分でないとの指摘をうけた。 (今後の展望) 今後は、本教育プログラムを継続しつつ、地域のニーズをふまえた地域づくりの能力「地域デザイン力」を涵養するための対話型学修を、都市と建築を通じて新たに開発・実施する。